車載ナビゲーションシステム

横内一浩*
井手野宏昭*
太田正子*

要　旨

車載ナビゲーションシステムは，1980年代初期に発表されて以来，車の位置精度の向上と地図データベースの整備に多大な年月を費やしたが，日本が世界をリードしてきた。

90年に三菱電機が世界に先駆けてGPS(Global Positioning System)を採用し製品化したことにより，位置精度は格段に上昇し，地図データベースも並行して整備されてきた。

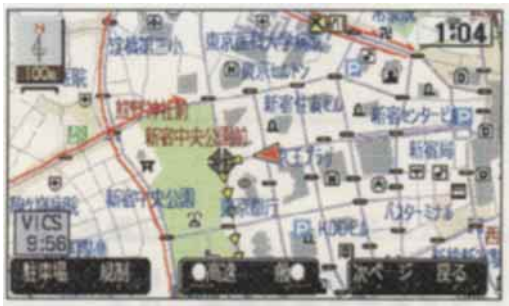
90年の製品は，車載モニタにナビゲーションの地図のみならずテレビ，オーディオ，エアコン，電話等の状態やスイッチを表示し，操作は画面上のタッチパネルによるものであり，現在の多重表示システムのはしりでもあった。

当社は，ナビゲーション本来の機能である“目的地へ分かりやすく案内する”ための経路計算，経路案内及び地図データベースの研究開発を行って製品化してきた。

96年にはVICS(Vihicle Information and Communication System)のインフラも整備され，運転者が最も必要としていた交通情報とナビゲーションの融合製品をいち早く市場に投入した。

地図データの記憶メディアがCDからDVDになるに従い，ナビゲーションのユニットで音楽再生ができるのみならずビデオ再生も可能となり，ナビゲーションは車内のエンタテイメントのプラットホームにもなりつつある。

海外においてもナビゲーションの普及の兆しが見えてきており，97年には世界に先駆けて欧州向けにRDS−TMCに対応し，98年には海外で特長のある矢印表示のシステムを製品化し，北米市場へも市場投入した。



VICS表示画面

３D交差点図表示画面

ビデオ再生DVDナビ

多重表示画面

車載ナビゲーションシステム

VICSに代表される車外からの交通情報の取り込み，より分かりやすい経路案内，エンタテイメントのプラットホーム，海外向けの多重表示システムなどを示すが，単なるナビゲーションでなく，車載情報システムとしてのプラットホームになっていく。

*三田製作所